



- 活用場面**
- ◎ 経営管理
 - ◎ 栽培データ活用
 - ◎ 作業計画策定
 - ◎ 農業機械管理

◎ : 市販化
○ : 開発中

導入効果とコスト

作業時間の短縮 ※1	↓	5%	購入価格	初期費用	無料～10万円
適正管理による収量の増加 ※2	↑	5%			

※1 農林水産省スマート農業取組事例 新潟県より
※2 農林水産省スマート農業取組事例 青森県より

技術開発の状況と課題

- システム間でデータの共有や比較ができないため、システム間のデータを集約し、連携・共有を可能とする農業データ連携基盤（WAGRI：ワグリ）を構築中です。
- ほ場数が多くなるほど地番や面積など入力に時間と労力を要します。有料の入力サービスを用意しているシステムもあります。
- 使用する全員が使いこなせるよう簡易で分かりやすい操作性が求められます。

こんなことができます

- ほ場ごとの作業をスマホ等で記録し、作業者間での作業情報の共有や効率的な作業ができます。作業者への的確な作業の指示ができ、作業の進捗状況や作業漏れの確認が可能です。作業計画の作成にも活用できます。
- GPSと地図情報を活用し、スマホ等でほ場の位置の確認ができます。誤って他のほ場で作業することを防ぐことができます。
- 葉色や収量等のデータからほ場の特性に応じた施肥など適切な栽培管理を実践することができます。
- 栽培データの蓄積により、技術の継承が可能となります。
- 使用した資材や収量・品質等のデータから経営収支の確認や分析を行い、経営計画の作成に活用できます。
- 生産部会全体で導入し、部会全体の成績向上に活用できるシステムもあります。
- 生産者だけでなく、流通・小売業へ情報を発信、共有することができます。
- GAPに対応したシステムもあります。
- 作業情報の共有や効率的な作業は農作業事故の減少につながります。
- 農業機械の稼働時間などを把握し、適切なメンテナンスを行い、作業中の修理によるロスを最小化するシステムもあります。

使いこなすためのポイントと留意点

- 導入目的やコストに合うシステムを選択します
 - ・多種多様なシステムが開発されています。システムによりできることやコストが異なるので、導入の目的や必要な機能、ランニングコストを含めたコストを事前によく検討し、必要なシステムを選択します。
- ほ場管理については、使用する全員が操作できるようにします
 - ・従業員も含めて使用する全員が操作できるようになる必要があります。
- 使用する人数分のアカウントが必要です
 - ・家族や従業員などほ場管理で利用する場合、使用する人数分のアカウントが必要になります。使用人数に応じて使用料金も変わるシステムあります。
- 複数のシステムを使用する際はシステム間の連携等に注意が必要です
 - ・システム間の連携は開発中なので、複数のシステムを使用する場合は、データの連携や共有に注意が必要です。